

あの日々を 忘れないために

沖繩戦では日本史上まれにみる、住民を巻き込んだ地上戦が行われ、20万人もの尊い命が奪われ、多くの県民が犠牲となりました。

その沖繩戦が終結してから今年で70年。戦争体験を知らない世代が増え、戦争を自らの体験として語ることでできる方々が少なくなってきました。

沖繩戦の悲惨さを伝え、二度とこのような戦争を繰り返さぬよう、人々の記憶のなかから沖繩戦の惨禍を忘れることなく語り継いでいかなければなりません。



写真提供『沖繩県平和祈念資料館』

写真で見る沖繩戦



砲煙弾雨に煙る中部戦線。激しく抵抗する日本陣地に火災放射弾を浴びせる米軍。



やっと地獄を生き残りお互いに傷の手当をしている少年と少女。



“鉄の暴風”と形容される米軍の猛攻を示す夜景。恐怖のどん底にありつつ、思わず見とれたという人もいる。

体験記②

私は、家族と共に山原へ疎開しようとしたら、日本軍によって、「あんたがたがみんな逃げたら誰が弾運びするのか」と経塚に引き止められ、経塚で重傷を負うことになった。私がいたら両親が避難できないから早く死んでしまおうと思って急須の水をいっぱい持ったので、それを全部飲んで死なないのです。私は、右肩、右腕、そして右大腿部をやられ、右足の骨が折れてぶらんぶらんしておりました。

体験記③

「私が浦添城址で捕虜になったとき、壕の前の方には兵隊や住民の死体がゴロゴロしているのです。10日も二週間もたっている死体の側を通ったり、見たりしているのが死体という感じもしないし、物すごく悪臭がしていたはずなのにそれも感じないのです。だから、もう恐らく頭は正常じゃなかったんじゃないかと思うんですよ。戦争の弾の中にお人というのはですね、恐らく正常な感覚が働かないんじゃないかと思いましたよ」

- 【引用・参考文献】
- 浦添市 浦添市平和ガイドブック
 - 浦添市教育委員会 URASOE平和のかけはし
 - 浦添市教員委員会 URASOE歴史たんけんブック
 - 浦添市史 第五巻資料編4 戦争体験記録
- 【写真提供】
沖繩県平和祈念資料館

たくさんの県民が犠牲に

沖繩戦には、いくつかの特徴があります。一つは米軍が上陸してきたために、県民生活の場がそのまま戦場となったことです。これを「地上戦」といいます。広島や長崎に、原子爆弾が落とされ、一瞬のうちに市民が犠牲になった場合と性格が異なるのです。また、兵士よりも、多くの県民が犠牲になったことも特徴です。県民の生活の場である町や村が、そのまま戦場となったので、県民は逃げ場を失って戦火の犠牲となりました。

激戦地だった浦添

前田高地の戦い、1945年4月1日、米軍は北谷町から読谷村の海岸に上陸した後、軍の大部分が首里・那覇を目指して進軍してきました。日本軍は、現在の宜野湾市にある嘉数高地と浦添グスク（前田高地）に防衛線を張り、進軍してくる米軍を迎え撃ちました。そこで、日本軍と米軍の激しい攻防戦が繰り広げられ、沖繩戦最大の激戦地となりました。地上では米軍の戦車や装甲車が進攻、おびただしい数の銃弾が飛び交い、洞窟や壕には手榴弾が投げ込まれまし

次の世代へ伝えていくために

浦添市では平和行政の柱として、昭和61年に「平和都市宣言」、平成8年に「核兵器廃絶宣言」を制定し、平和への意識を更に高めていくため、同年から「中学生平和交流事業」を実施しています。未来を担う中学生が、県内外での平和学習を通じて戦争の実態や平和の尊さを学び、平和への願いを広げていきます。また、終戦70年目の節目にあたる今年を、「ピースイヤー in 浦添」として、年間を通じ各種平和祈念行事等を予定しています。この機会に平和の尊さを一緒に考えてみませんか。



恒久平和への願いを込め戦没者の冥福を祈る団員。

た。空からは「鉄の暴風」と呼ばれたほどの凄まじい爆弾投下と砲撃をうけ、多くの死傷者がました。

住民の44.6%が犠牲に

浦添の住民は陣地づくりの作業にかり出されたり、弾薬を運ぶ役目を負わされたりと日本軍兵士の手伝いを強制的にさせられました。また、住んでいた屋敷を兵士に無理やり追い出されることもあり、その結果、多くの住民が逃げ場を失い命を落としました。当時浦添の人口は約9,200人でしたが、そのうち戦争で亡くなった人は4,112人で実に44.6%の住民が犠牲になりました。

ある住民の体験

浦添市が発行した浦添市史第五巻には、住民の生々しい戦争体験が収録されています。その中から一部紹介します。（紙面の都合上、抜粋しています。）

体験記①

「ここから、2,300メートルほど離れた、小高い所に敵（アメリカ軍）が入り込んで見えた。おじいさんが私たちの壕に来て、「うちの壕に、週榴弾が投げ込まれて、おばあさんの首から下はどこへ行っただか、わからないよー、死んでいるよー」とおっしゃわ

戦災実態調査票(浦添村全体)

字別	世帯数(戸)	家族数(人)	戦死者(人)	戦死率(%)	一家全滅(戸)	一家全滅率(%)
仲間	125	503	278	55.3	41	32.8
安波茶	60	209	134	64.1	26	43.3
伊祖	111	555	181	32.6	19	17.1
牧港	163	669	259	38.7	34	20.9
港川	48	226	97	42.9	5	10.4
城間	278	1,155	425	36.8	55	19.8
屋富祖	96	339	135	39.8	24	25.0
宮械	126	437	228	52.2	40	31.8
仲西	55	214	40	18.7	7	12.7
小湾	82	301	107	35.6	17	20.7
勢理客	55	248	81	32.7	8	14.5
内間	77	307	97	31.6	17	22.1
沢岷	135	646	272	42.1	31	23.0
経塚	96	339	191	55.0	24	25.0
前田	201	934	549	58.8	59	29.4
西原	269	1,559	773	49.6	46	17.1
当山	49	229	126	55.0	11	22.5
大平	51	262	139	53.1	11	21.6
合計	2,077	9,217	4,112	44.6	469	22.6

「浦添市史 第五巻 第五章 資料にみる沖繩戦」より

2015年ピースイヤー in 浦添

開催行事等	内容	開催時期及び場所
【講演会】 障がい者と沖繩戦	戦時中、障がいを持った方々がどのような状況におかれていたのか、戦争を生き抜いた障がい者が、これまであまり語られなかった戦争体験を語る。併せて、沖繩戦のパネル・資料展示を行う。	6月7日(日) 14:00~15:30 浦添市役所 9階講堂
【講座】 子どもから見た戦中・戦後 ～浦添の戦争体験を語り継ぐ～ (全5回) 講師：石原昌家氏 他	戦中の様子や戦後の浦添村仲間収容所での復興、村民の帰村運動へ関わった人々から体験を聞き、一人ひとりがより良いまちづくりに係わる意識啓発の講座を実施。地域自治会での聞き取り、市内小学校へ「平和キャラバン隊」の派遣も実施。	第1回 6月11日(木) 19:00~ 浦添市中央公民館(本館 3階ホール) 第2・3回 仲間自治会 他 第4・5回 学校2校で開催
【展示】 儀間比呂志 「戦がやってきた」展	沖繩を代表する美術家・儀間比呂志が沖繩戦をテーマに制作した版画(パネル)展。原作本の読み聞かせ会も開催。	展示:6月23日(火)~6月28日(日) 読み聞かせ会:6月23日14時~6月27日11時 浦添市美術館
【コンサート】 レクイエムコンサート2015	浦添市子ども文化連盟「太陽樹 ていだーじゅ」によるコンサート。	6月14日(日) 16:00~18:30 てだこホール(大ホール)
【展示】 戦争遺物展	市内から出土した戦争遺物の展示。	6月2日(火)~7月5日(日) 浦添グスク・ようどれ館
【展示】 70年目の祈り ～平和を考える～	平和に関する図書の展示。	5月30日(土)~8月30日(日) 浦添市立図書館
【展示】 移民と戦争	移民が経験した戦争に関する写真展示。	8月 浦添市立図書館
【イベント】 戦跡巡り	浦添市内に残る戦跡をうらおそい歴史ガイドが案内。	年3回予定(時期は未定) (うらおそい歴史ガイド主催)

※上記の行事等は、現時点での予定を記載しており、変更・追加等になる場合があります。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。